

### 地球上の生命の循環

宇宙から地球を見ることができれば、地球が、水の惑星、生命の惑星であることが容易に理解されるに違いない。現在の科学的知識に基づくと、地球上のほとんどの生物は、植物の光合成で作られた糖類などの栄養素を利用して生きている。光合成とは、植物が光によって水を分解し、酸素を発生させ、炭酸ガスを糖などの有機物にするシステムである。動物は、植物が作った栄養素を利用して生育し、動物どうしの食物連鎖により、小動物から大動物へと栄養素の移動が行われる。人間は、これらの食物連鎖の頂点に立って、地球上の広範囲の生物を食料源にして生活している。一方、地球上のすべての生物は、死ぬと様々な化学反応によって、化学物質に変換され、環境に還ってゆく。

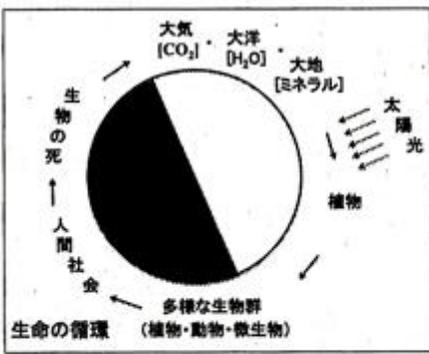
地球上の生命現象とは、太陽エネルギーを基盤にして、水と炭酸ガスとミネラル群が織りなす壮大な絵巻物と捉えることができる。総ての生命が、奇跡の一瞬を生きているのだ。この奇跡の生命現象は、すべて電子雲の中で起こっており、電子の置かれたエネルギーの状態の変化で説明できる。

この生命の循環の考え方は、義務教育を受けた人ならば、容易に理解してもらえらるだろう。ヒンズー

教や仏教だけでなく、古代のエジプトやギリシャなどでも「輪廻転生」の考え方があがるが、これらは昔の賢人が考えた「人間の生きる道しるべ」の一つである。私が主張したい「生命の循環」は、科学的なエッセンスに基づいた原子・分子の循環の世界である。地球上のすべての生物は、過去の生物が使った原子・分子を使って現世を生きており、死ぬと地球環境に戻り、未来の全ての生物の一部となって蘇るのである。これは、信仰やオカルトではなく、科学的事実なのだ。

それでは、最初の生命は、何処でどのようにして生まれたのだろうか？ 宇宙における生命の起源の謎は、まだ解明されておらず、人類に残された最大の研究課題の一つと言って良い。

今こそ、地球上で生まれている異常なまでの閉塞感を打ち破るために、人類は新しい哲学を創出する時であろう。私は、その新しい哲学を「宇宙生命哲学」と命名したい。原発によるエネルギー政策は、この新しい哲学に真っ向から逆らうものである。脱原発の先には、大いなる命のパラダイスが用意されていると思う。



生命の循環